

蝸々温泉での湯治

結婚して洋一が生まれる迄二年半近くの間
に温泉湯治に二回行った。初めは蝸々温泉、
二度目は遠刈田温泉佐藤源兵工旅館である。

私の母は胃が弱く年中医者に罹りきり。病
弱で、悪いときは食事もせず、年中お粥を食
べていた。

春と秋、年二回温泉湯治に行っていた。父
は母思いで実によく大事にした。鎌先温泉、
蝸々温泉、遠刈田温泉源兵工旅館は胃の病氣
に効くと云うので、一回二週間くらい自炊で、
母一人で湯治してくる。父も母の顔見に、時々
行く。私も小学生の頃、小さい妹を連れ鎌先
温泉で湯治中の母の許に行ったことがある。

洋一が生まれる前だから昭和二十八年の春、父に勧められ、蝸々温泉に
休暇を利用して、両親と私達四人して湯治に行った。青根温泉から五、六
キロ、車道はあるが曲りくねって遠道だ。急な細い近道を徒歩で行った。
父は元気で足も達者だ。重い荷物を背負い、旅館に荷物を置き、私達左
途中まで迎えに来た。持っていた荷物を取り上げ背負い、温泉に無事到着。
一部屋を借り切り、母となかは炊事当番、楽しく四、五日温泉に浸り湯治
して帰った。新緑の山荘は素晴らしい。

青根温泉から蝸々温泉迄は車道があった。私が車を買って蔵王山頂上キ
でドライブするとき、時々その道を走った。新緑トンネルの曲りくねった
陽春の道。一息入れ風光の素晴らしさに見とれる紅葉台。温泉の露天風呂
を横目に、橋を渡り急な坂道を走りエコーラインのゲートに着く。

この道は十年以上前から、崖崩れで不通になっている、蝸々温泉に行く
にはエコーライン方面からしか行けない。急な坂を下り、温泉旅館を眺め
るとき、今は亡き両親を偲び、若かりし時代を思い出す

